

第4問 (20点)

(株)CPA製作所は、単一製品を連続生産している。下記の[資料]にもとづき答案用紙にある製造原価報告書の記入を行い、当月の売上総利益を答えなさい。

[資料]

1. 当月棚卸資産の月初棚卸高および月末棚卸高

	素 材	買 入 部 品	間 接 材 料 費	仕 掛 品	製 品
月初棚卸高	147,000 円	61,000 円	185,120 円	1,924,990 円	1,649,750 円
月末棚卸高	113,800 円	58,900 円	172,790 円	1,855,360 円	1,187,290 円

2. 当月支払高および発生額

材 料 掛 仕 入 高	3,840,000 円	材 料 現 金 仕 入 高	2,960,000 円
支 払 賃 金	12,770,800 円	諸 手 当 支 払 額	1,143,000 円
工場減価償却費 (年額)	3,840,000 円	水 道 光 熱 費 (測 定 額)	246,000 円
保 険 料 (半 年 額)	570,000 円	そ の 他 間 接 経 費 支 払 額	1,202,280 円

3. その他の資料

- (1) 素材の当月消費高は3,100,000円であり、買入部品の当月消費高は900,000円である。これらはすべて直接材料として消費した。
- (2) 直接工の労務費は予定賃率を用いて計算しており、1時間当たり1,800円である。当月総就業時間の内訳は直接作業時間3,800時間、間接作業・手待時間1,400時間であった。
- (3) 工員の前月未払賃金は703,000円であり、このうち283,000円は間接工の未払賃金が含まれている。当月未払賃金は546,200円であり、このうち179,200円は間接工の未払賃金が含まれている。
- (4) 間接工の間接労務費(諸手当をのぞく)は3,267,000円である。
- (5) 製造間接費の予定配賦額は直接労務費の170%である。
- (6) 当月売上高は27,600,000円である。また、当月生じた原価差異は全額売上原価に賦課する。

第 5 問 (20 点)

中野工業株式会社は、単一製品 H を製造販売している。下記の [資料] にもとづき次の問に答えなさい。

[資料]

1. 当月生産実績データ

月初仕掛品	5,000 個	(40%)
当月投入	20,000 個	
合計	25,000 個	
月末仕掛品	2,000 個	(50%)
正常仕損品	1,000 個	
完成	22,000 個	

2. 製品原価データ

	直接材料費	加工費
月初仕掛品原価	740,000 円	1,389,000 円
当月投入原価	6,460,000 円	12,411,000 円

※ カッコ内の%は加工進捗度を示している。正常仕損品の発生点は各問の指示により異なる。

問 1 正常仕損品が工程の終点で発生した場合の完成品原価および月末仕掛品原価を答えなさい。なお、正常仕損の負担は加工進捗度を考慮した度外視法 (**問 2** はのぞく) により行い、月末仕掛品の評価は平均法により行う。(問 2 も同じ)

問 2 正常仕損品が加工進捗度 70% で発生した場合の完成品原価および月末仕掛品原価を答えなさい。なお、正常仕損の負担は加工進捗度を無視した度外視法により行う。

問 3 正常仕損品が加工進捗度 30% で発生した場合の完成品原価および月末仕掛品原価を答えなさい。なお、月末仕掛品の評価は先入先出法により行う。(問 4 も同じ)

問 4 正常仕損品が工程の途中で発生した場合の完成品原価および月末仕掛品原価を答えなさい。なお、正常仕損品には 1 個当たり 42 円の評価額があり、全額加工費から控除する。